

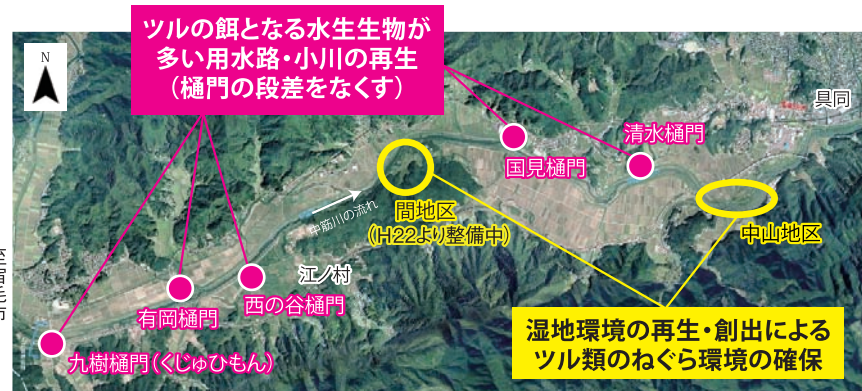


四万十川・中筋川流域では、秋から冬にかけてツルの飛来状況を調査しています。平成22年10月には、澤田佳長先生（野生生物環境研究センター所長）がナベヅルとコハクチョウが水田で遊んでいる姿をキャッチ！コハクチョウの集団飛来の南限は山陰地方で、四万十市への飛来は約20年ぶり。通常の活動エリアもツルが水田、コハクチョウが水辺と異っており、とても貴重なツーショット写真が撮影できました。



協働 間地区でツルのすみやすい環境づくりを行っています！ ～四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)～

国土交通省中村河川国道事務所では、中筋川流域でツルの餌となる小魚・エビ等のすみ環境の再生（樋門の段差解消）や、ツルが安心して過ごせる湿地の再生などを行っています。そして、今年度からは間地区でも湿地環境の整備を行っています。地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



高病原性 鳥インフルエンザの確認 への対応等について

現在ツルの飛来は確認されていませんが、心配されている鳥インフルエンザへの対応については、高知県から右記のとおり発表がありましたので、ご参照下さい。

昨年12月、鹿児島県は、鹿児島県出水市で発見されたナベヅルから、高病原性鳥インフルエンザウイルス（強毒タイプ）が確認されたと発表しました。国内で鳥インフルエンザが発生したからといって、直ちに県内の農家で飼養されている家さん等が感染するということはありませんが、県民の皆さまには、飼育されている鳥に異常（原因がわからないまま大量に死亡するなど）があった場合や、野鳥が大量に死亡しているのを発見した場合には、下記にご連絡していただくようお願いします。なお、野鳥については、鳥インフルエンザ以外にも様々な細菌や寄生虫により死亡する場合がありますので、死んでいるのを見つけた場合には、素手で触らず、ビニール袋に入れて封をし、廃棄物として処分していただいても構いませんし、不安な場合には鳥獣対策課に連絡して下さい。

【家さん等の異常】高知県西部家畜保健衛生所：0880-37-2148
高知県畜産振興課：088-821-4553
【死亡野鳥】高知県鳥獣対策課：088-823-9039



ツルを見かけたら お願い



四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451
mail:naka10@cciweb.or.jp



四 万 十

つ る だ よ り

人と自然の共生する「ツルの里」をめざして

Vol.12 ●発行日／平成23年2月25日 ●発行／四万十つるの里づくりの会
http://www.shimanto-tsuru.com

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏（野生生物環境研究センター所長）よりご提供いただいております。

ツルの里づくりに取り組む 佐賀県伊万里市を視察!!



▲スライドで伊万里市の取り組みを学習

平成23年2月5日、
四万十川・中筋川流域と同じく国をあげた

「ツルの越冬地分散化」の候補地となっている佐賀県伊万里市へ、会員11名で視察に行ってきました。

ツルは現在、鹿児島県出水市に集中して越冬していますが、伊万里市はちょうど繁殖地である中国東北部やロシア極東域から朝鮮半島を経て出水市に渡っていくルート上にあり、ツルは玄界灘に面した伊万里湾にある広大な干拓地（東山代干拓：65ha）に飛来します。視察に行った際には、越冬中の4羽のマナヅルが私たちを出迎えてくれました。



▲メモを取り、真剣に話を聞くメンバー

伊万里市では、平成15年度から行政が中心となってツルの越冬地づくりに取り組んでおり、干拓地という決まった場所にツルが飛来する利点を活かして、冬場は干拓地全体をネットで囲んで立入禁止にしたり、給餌（餌やり）を行ったりと、さまざまな越冬環境の整備が行われていました。また、ツルをひきつけるために空に向かって鳴き声を放送するなど実験的な取り組みも行われており、思いついたことやできることには何でもチャレンジしている様子が印象的でした。



▲現地での意見交換



▲ツルの監視小屋で貸し出された望遠鏡をのぞくと…「イター!!」



▲4羽のツルがお出迎え!

中面では、伊万里市の具体的な取り組みを紹介しています!

